

## 【冒頭部分】

日本文化の総合芸術と言われている茶道を、これから皆様に体験していただきます。より、日本文化を深く 体験していただけるように、茶道はどのようなものか？を勉強していただきます。

## 【2 項】

これから皆様に入ってくださいお茶室には日本文化が詰め込まれています。掛け軸には「書道」、生け花には「茶道」、茶室には「枯山水などの日本庭園」や「日本建築」「空間芸術」、茶道具には「陶芸」や「工芸」などが詰め込まれています。亭主は皆様を迎え入れるために、設えなどすべてを演出しております。どうか皆様には静かにこの空間を味わっていただき、楽しんでいただけると幸いです。

## 【3 項】

815 年頃中国から葉として伝わったお茶は、日本文化と武士道精神が詰め込まれ、約 12 世紀の時を経て、今も「茶道」として受け継がれています。戦国時代には「茶会」は限られた武将だけに開くことが許され、茶道は武将たちの憧れだったので。それから長い年月を経て、茶道は今では階級関係なく楽しめる日本文化として定着しました。

茶道のお稽古では、亭主となって「しつらえ」や「おもてなし」ができるようになることと、客人となって亭主のおもてなしの心をありがたく受け止められる心を鍛えることを教わります。茶道を学ぶことは、日本文化を感じるほかに、日本人の心を感じる事が出来るのです。

## 【4 項】

では、これから茶室に入って茶道体験をしていただくみなさんに覚えていてほしいことが 1 つあるのでお伝えします。

「茶道やおもてなしに正解はない」

茶道を広く広めた歴史上の人物「千利休」の言葉にこういう教えがあります。

「その道に入らんとする心こそ我身ながらの師匠なりけれ」

茶道を体験してみたいと思ったその瞬間に、あなたの心にはもうすでに立派な師匠が居るので、心に従って感じてください。

答えなどない。皆さんの心が感じたことが正解なのです。心で感じきって頂くために、静かに体験を楽しんでください。

## 【5 項】

最後に、これから皆様にしていただくことをお見せします。

1. 躰り口をにじって入る
2. 座布団の場所に座る
3. お茶菓子を食べる
4. 抹茶を飲む

では侍が憧れたお茶会へ行っちゃい！